

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自主性を持ち各自の能力を活かした生活支援をするという事業所の理念は事務室等に掲示し共有し、やりすぎない支援を意識している。また玄関に貼り、家族からも見えるようにしている。家族には契約の時に理念を渡し説明している。	職員は理念の「自主性を持ち各自の能力を活かした生活支援をする」に沿ってやりすぎない支援を行っています。やりすぎと感じた場合はその場で話し合い、その内容をスタッフノートに書き、他の職員に伝わるよう、情報を共有して理念に沿った支援を実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には地域の民生委員や町会長、包括支援センターに参加していただいているが、行事には参加できていない。運営推進会議の時に非常時の動きなどを相談している。	コロナ禍の影響で、運営推進会議メンバーである地域の民生委員や町会長とはFAXでのやり取りとなっています。地域では認知症サポートについての相談窓口を設け、情報の共有化を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会の方には話しているが、それ以上のはたらきかけはしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年はコロナで運営推進会議が開催できず、書面にて意見を聞くにとどまっている。特に、意見もでてこなかった。	コロナ禍のため、運営推進会議は実施していませんが、定期的にFAXで状況報告を行っています。その報告書にはパスワードを記載し、関係者のみがホームページ内で利用者の近況を撮った写真が見られるようにしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活支援課には生活保護の方の日頃の様子の報告など行っており、包括支援センターの方には運営推進会議の代わりにファックスにて報告や意見を聞いたりしている。	生活保護課に生活保護の利用者について、必要に応じて報告を行っています。また半年に1度ほど担当者の訪問を受け、意見交換をしています。コロナ禍のため、包括センターには2か月に1度、運営推進会議の代わりにファックスでの報告をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては行わない前提で、二か月に一度運営推進会議の際に身体拘束適正化委員会を開催し、家族及び市に報告していたが、今年はFAX及びメールにて報告している。	職員は身体拘束しないケアを実践しています。2か月に1度、運営推進会議メンバーに身体拘束委員会として、拘束事例の無いことを報告しています。利用者の安全を考慮し玄関の施錠は継続しています。	職員は身体拘束をしないケアを実践していますが更に理解を深めるために、施設内での研修に加え、機会をとらえ、外部研修の受講が望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項の説明を行っており、契約後でも疑問や不安があればいつでも質問を受け付ける旨も伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の代わりにファックスや個々の面会、メール、電話などで意見等を伺い、職員に周知徹底している。	管理者は利用者家族から電話やSNS、メールなどを利用して意見を受け取っています。必要な内容はスタッフ・ノートに記入して全職員での共有化を図っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも職員からの連絡を受けられる状態（メール、ライン、電話など）であり、意見はノートに書くことにより他の職員にも周知徹底されており、運営に反映させている。	職員は意見をスタッフ・ノートに記載して周知徹底を図っています。従来、家族への消耗品の補充は気が付いた職員が行っていましたが、重複を避けるため、とりまとめを1人に決めるなど、職員からの提案を反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	頻回なコミュニケーションにより、個々の職員の状況を把握できており、良い環境で働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひとりひとりのケアを観察し、アドバイスと実践により指導している。介護の技術など得意なことがあるスタッフと、そのことが苦手なスタッフを組み合わせ実践で習えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴し、受け止めている。また、その内容はノートに記録することにより職員間で共有してケアに役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面談の際に、家族が困っていることなどを聞きこみ、カランとして行えるケアの提案を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の要望を最初によく聞き取ることで必要な支援の提案および、他の施設などへの検討も含めて説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることは自分で行うようにしている。やりすぎない適切な支援の提供とやりがいを持ってもらうということを念頭にケアしている。また他の入居者とのスムーズな関係作りにも配慮し話題の提供などを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の役割を説明し、買い物や外出や面会など、家族にできることはやってもらっている。介護のサービスが入ることで家族と本人が良い関係で会えるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や親せきなど、今まで築いてきた関係を壊すことなく自由に会ったり連絡を取ったりできる環境であるが、コロナで面会を制限した時期もあった。外出・外泊の支援(服薬、着替えの準備など)をしているが、今年は誰も外泊はしていない。	コロナ禍の対応として、家族は手洗い、マスクの着用を徹底し、消耗品の受け渡しなど必要に応じた面談を行っています。また、希望者にはパソコンやiPadを使用し、スカイプによる面談を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションのきっかけをつくり、喧嘩などがあっても本人たちでなるべく解決できるよう支援して、お互いができることを行い支えあって生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があったときには応じられるよう、職員ひとりひとりが家族や本人とコミュニケーションを図っており、情報を共有している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の希望がかなえられるよう、家族と連携し、必要なものをそろえてもらったりしている。	希望や意向を容易に伝えられない利用者からは言葉を丁寧に聞きとり、表情からも把握するよう努めています。声の出ない利用者とは筆談でコミュニケーションを図っています。最近、映画が観たいという利用者の希望をかなえるために他の希望者も集め、映画鑑賞を行いました。できる限り、利用者の希望に沿うよう、心がけ、努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から聞いた話を職員で共有し、ケアに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理やり何かに参加させたりはせず、プライベートな時間を大切に、本人の状況を見て声掛けをしている。また、観察したことを職員で情報共有しケアに役立てている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の観察で気づいたことなどを家族・職員と共有し、ケアプランの作成に役立てている。	介護計画は職員から一人ひとりの利用者の様子を確認し、ケアマネージャーと管理者で作成しています。変更は退院後など変化に気づいた時点でを行います。コロナ禍であり、家族との相談は電話やメールで行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日々の記録は個々の日誌に、また気づいたことややってみたことなどはノートに記入し職員で共有している。ケアプランの作成にも役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	連絡を密にし、情報を共有することで、本人や家族の状況に応じて支援を行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーや美容院、病院、訪問歯科など、本人の状況や希望に応じて利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の往診を利用しているが、希望があれば今までのかかりつけ医などへの通院も可能である(家族同行)	本人・家族などがかかりつけ医の受診を希望する場合には家族の同行で通院は可能としています。その際は適切な医療が受けられるように支援します。ただし、現在、かかりつけ医の受診希望者はいません。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護により、利用者の状態の情報共有および、相談などを行っている。必要な場合は主治医との連携も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、状況提供を行い、スムーズに適切な医療を受けられるように支援している。退院前のカンファレンス等も参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人または家族にしっかりと説明および意思確認を行い、主治医・訪問看護と家族との密な連携により、本人が不安なく支援を受けられるように努めている。	「重度化や終末期に向けた方針」は本人・家族にしっかりと説明し意思確認を行い、同意書を交わしています。内容に関して気持ちの変化があればその都度変更が可能であると伝えていますが、現在まで変更を希望されたことはありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時には、緊急連絡の優先順位に従い、家族や主治医や看護師との連携により適切な対処ができています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年消防者参加の訓練を行っているが、今年はコロナの影響で消防署の訓練は行っていない。避難は基本的には施設内で待機し、必要に応じて避難所(近くの中学校)への移動や登録などを行うという手順を地域に確認している。	毎年消防署による訓練を行っていましたが、今年はコロナの影響で行っていません。施設内に「災害対応マニュアル」があります。基本的に避難は施設内で待機し、必要に応じて近くの中学校へ移動するなどの手順は全職員が共有しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った声掛けや対応を徹底している。	職員は利用者一人ひとりの生活や生活歴を尊重して接しています。職員のやり方がおかしいと気づいた場合には他の職員がその場で注意します。利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を周知徹底するようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の目線で話しかけ、気持ちをくみ取れるよう傾聴を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで生活していただいている。食事が間に合わない時は、食べれるときに合わせて出したりしている。プライベートな時間を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好む格好ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前には体操を行い、利用者にはできることはやっていただき(主に食器下げや机拭きなど)生活の中のイベントとして食事をしていただいている。	食事の準備や調理(湯煎とみそ汁、野菜を切るなど)を職員と一緒にを行い、できる利用者は各自食器のあと片付けをしてもらうなど食事を楽しむ支援を行っています。またイベント食を笑顔でおいしそうに食べている様子がうかがえます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取した食べ物の量や水分量を記録し、その情報は職員が共有できるようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる人は自分で、声掛けが必要な人は声掛けを行い、それぞれの状況に合わせた方法で行えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の能力に応じ、不快感なく排泄できるよう支援している。	利用者ができる事は自分で行ってもらい、排泄の自立を目指しています。利用者に布パンへの移行支援は行っていません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録をもとに、水分摂取や軽いマッサージ、必要に応じて服薬などにより排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯はだいたい決まっているが、本人のペースで着替え入浴できるよう支援している。	入浴の曜日、時間帯はだいたい決めています。本人のペースで入浴できるように支援しています。また、それぞれのお気に入りのシャンプーやソープを使い、個浴で週2回の入浴を楽しむ支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	プライベートな空間で適切な温度・明かりで、気持ち良く休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬の内容を把握しており、状態の観察により主治医との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望を把握し、家族と連携してそれぞれのやりたいこと、気分転換などができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的に外出同行は家族の役割としている。その日の希望によって対応することはしていない。今年はコロナで外出はほとんどしていないが、天気の良い時は庭に出て散歩したりしている。	コロナ禍以前は利用者全員が家族の同行で外出をしていました。その際、職員は外出着への着替え、トイレ、必要な持ち物(リハビリパン、パット、薬など)をセットし、スムーズな外出支援を行っていました。今年はコロナ禍の影響でほとんど外出はしていません。日常的に施設内の庭に出て散歩をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を所持しないと不安な場合は、家族の協力のもと、所持できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話や手紙でのやりとりを行えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃をしっかりと行い、明るすぎず暗すぎず、適切な温度で、無駄な装飾はせずに、利用者が自宅にいるかのように安心できる環境づくりに配慮している。	エントラス、居間など共通空間は落ち着いた色合いに統一され、花が飾られています。トイレやキッチン、浴室などは清潔感が感じられます。施設内は利用者が季節感を感じる配慮がされ、居心地よく過ごせる工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間でも個室でも自由に動き、生活していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく本人の物を持ち込み、馴染みある部屋になるように整えている。	入居時、住み慣れた居室と差がないよう、馴染みのものを持ち込むよう家族に助言し、利用者の居室は本人の馴染みのもので整えられています。その結果、利用者はそれぞれの居室で安心した生活をすごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は自由に移動して生活している。わからないところは職員が声掛けにより支援している。		